八戸市

資　料　２
令和４年６月２８日

第1・２回会議での意見内容とりまとめ

※当該資料は、第1・２回会議の委員意見を踏まえ、
事務局が整理したものです。

総合政策部　政策推進課

■ 若者や女性にとって魅力あるまちとは？

八戸市

人材還流

①学生の就職にあたっては多くの学生がうまくマッチングできて市外に流出しないまち

②県外に進学した学生が、奨学金支援を受け地元に戻りやすく自立しやすいまち

③就職の際に戻ってきたいと思うまち

④世界中のどこにいても、心のよりどころであり、戻ってきたくなるまち

子育て

①女性だけでなく、男性も子育てしやすいまち

②子育てがしやすいまち

③八戸圏域で、子供連れで行きやすいお店の情報発信があるまち

④女性が働きながら子供を産み育てたくなるまち

⑤子育てする人が一番えらいまち

シビックプライド

①伝統文化など地域のきらめく何かが地域の方に根差し、地方に暮らす意味を感じられるまち

②地域コミュニティの充実が図られ、住みやすいまち

③住みやすいまちづくり

④昔の思い出がある場所が今も多く残っているまち

⑤自分のまちに対して、自信と誇りを持てるようなまち

⑥過干渉になりすぎないコミュニティがあるまち

⑦・大切な人がいるまち

⑧愛憎相半ばのまち（関係人口の観点からもったいなさの可視化）

賑わい

①はっち市など、定期イベントが増えて、まちなかに人が集まるまち

②中心街を中心にしたイベントや店が充実している

③人が集まっているまち（現状、おっさんには良いまち）

④見るだけで楽しめるまち

⑤ホコテン等のイベント時だけでも中心街の駐車料金が無料になるまち

仕事

①地域の伝統工芸などの継承がうまく引き継がれ、生業につながるようなまち

②空き店舗の活用などにつながる創業支援があるまち

その他

①街路や歩道が整備され安全安心なまち

②若者・女性に焦点が当てられていると感じられる取組がある

■ その実現のために必要なことは？

八戸市

	シビックプライド	子育て	賑わい	人材還流	仕事	その他
情報発信	若者や女性が興味あることに人を集めて、みんなが楽しんでいることをSNS等で発信 小さな子供連れがゆっくり食事できる店舗の情報やベビールーム等の情報の一覧化			中高生向けの情報発信		
デジタル	町内会のデジタル化 忙しい子育て中の方でも、必要な情報をすぐ見つけられるようなシステムづくり（バーコードリーダの活用等）					
仕組み・体験づくり	子ども同士の結びつきの維持 教育課程の中で、子どもたちの体験の機会を増やす	子供のために使える休日を与える企業等に補助金を出す等の支援		学んだ成果を地域に活かす体験作り（教育と地元企業とのコラボ） サマーキャンプやインターンなど、若い学生が地域の職業を知る機会づくり		
デザイン	何かあると予感させるデザイン、統一された綺麗で安心感のあるデザイン、広義と狭義のデザイン、視覚のデザイン					
八戸圏域	八戸圏域で連携し、単発ではなく継続的に人のつながりが維持・発展していく仕組みづくり、圏域単位でまちの課題を解決していくアプローチ					
意識・視点	意識・仕組み・政治参画 市の外側からのエネルギーをどう生かしていくかが重要 まちの仕組み自体を見直すような視点が必要					

■ 第2回会議（5/19）での委員発言要旨

八戸市

【観光資源について】
・圏域という発想が非常に重要
・圏域で街の課題を解決するようなアプローチが必要。

【デザインの視点について】
・美術館の魅力を高めることと美術館の認知度を上げるは少し異なる。
・何かあるだろうと予感させるみたいな設計がある、何か気になる、そういう設計が必要。
・行ってみようという気持ちにさせる仕組み・仕掛けはデザインの分野。

【仕組みづくり】
・子ども同士の結びつきの維持、1回自分で体験する仕組み作りが必要。
・何かを一緒に体験する機会や経験した人から話を聞く体験の両方が必要。

【シビックプライド】
・若者は地元になにもないというがそんなことはない。
・情報が届いていない、届くべきところに有効に伝わっていない。
・良いものがあっても伝えるのは人なので、その部分をケアできれば。
・ファッションやお店等で満足度をはかると何もないという感覚に陥る。
・自分の可能性に比べてまちが何もないのは仕方がないことだが、そこに少し逃げ道があると、なんかいけそうな気持ちになってくる。
・街並みがきれいに統一されるだけでも満足度は違う。

【体験の機会】
・もっと緩やかな体験の場ということで、子どもたちにまちの魅力というものに触れることによって体験させることも重要。
・教育の過程でもっと体験の機会を増やせれば。
・作って終わりではなく、ユーザーの反応をしっかり想定してその後の仕組みが必要。

■ 第2回会議（5/19）での委員発言要旨

八戸市

【子育て】
・子育てのための情報発信について、他自治体には情報がまとめられたポータルサイトがあったりする。
・あるだけではなく、デザインや使いやすさ、見やすさが洗練されることで印象は違う。
・子育てする女性たちが自ら情報発信できるフィールドがあってもいいと思う。
・八戸らしさがある子育て支援を考えてもいいのでは。
・自己肯定感の低さを解消できるような取組。
・子育て世代以外を子育てに参画させる仕組み。

【情報発信】
・外から八戸市の情報を集めるのは非常に困難。Iターンとかで来ようと思っている人にどのように伝えるかが課題。
・企業によってはSNSを活用している事例もあるが、情報は非常に限定的。

【デジタル】
・若者の政治参画は必要で、デジタル化で解決していければ。
・地域の会社に関する情報がなかなか入手できない。
・より広範な情報発信にはデジタルとデザインの活用が見込める。

【教育】
・八戸市のまちづくりは東京をまねることではない。
・地域の魅力、地域の職業について、義務教育課程でしっかり子どもに伝えていく必要がある。
・子どもたちと問題を共有して、一緒に解決していく流れがあってもいいのではないか。

【人材還流】
・戻ってこいばかりではなく、出ていく人にもいってらっしゃいと言える仕掛けができないか。
・港町らしく見送るという点にも力を入れられれば、風通しのよい場所になっていくのでは。

■ 第2回会議（5/19）での委員発言要旨

八戸市

【デザイン】
・みろく横丁のような、そこで滞在しているだけで色んな人と触れ合っているというデザインをしてみたい。
・デザインには、可愛いもの格好いいものの見た目が良いものを作りましょうという定義と、意図をもって計画的にものを作りましょうという広い体と２つある。前者が狭義のデザイン、後者が広義のデザイン。
・インパクトのあるCMやなど、目を引くようなデザインが必要。
・中心街に空き物件が増えてきている中、美術館ができたが、もう一押し足りない印象。
・二度見するような目立つオブジェクトか何かあれば、思わず立ち止まってくれる人が増えるのではないか。
・美術館の周りがにぎわっている印象がまだないので、何か工夫が必要ではないか。
・UXという考え方で、見た目だけでなく接し方を設計するという考え方は必要。
・下田のイオンを例にしても、デザインの洗練、統一感の創出により、安心感が生まれる部分はある。
・若者が集まるだけのデザインにとどまらず、自然と高齢者と若者が触れ合うような仕掛けを作れれば面白い。
・千葉県流山市の事例「母になるなら流山市」というキャッチフレーズで子育て支援に非常に力を入れている。
・分かりやすいキャッチフレーズの存在と、しっかりとした行政サービスの構築（齟齬の生じない仕組み）の両方が必要。
・大学進学で一定程度流出するのはやむを得ないので、そこから戻ってきたくなる地域づくりは重要。
・そのためには大学進学前に地域への愛着を持てるような教育は必要。